秋田港、船川港、能代港に係る勉強会開催
3港の港湾整備促進を要望

7月19日、秋田商工会議所　三浦廣巳会頭(秋田港振興会会長)はじめ秋田港、船川港、能代港の関係者が出席し、3港に係る勉強会が開催され、港湾の整備促進について国に要望しました。

例年、国土交通省を訪問し、港湾整備を要望していますが、今年も昨年と同様、新型コロナウイルス感染症の影響で上京を取りやめ、国土交通省秋田港湾事務所と東京を結び、リモート勉強会として開催しました。また、東京の会場では、本県選出国会議員も参加しました。

勉強会では、港湾局の計画課長から「港湾行政の最近の動き」、海洋・環境課長から「洋上風力発電の動向」、産業港湾課長から「カーボンニュートラルポートの動向について」講演をしていただきました。

その後、それぞれの港の整備に関する要望内容を説明しました。

要望事項は、「港湾関連予算の確保」、「脱炭素社会形成に向けたカーボンニュートラルポート形成の推進」、「洋上風力発電事業の拠点化に向けた支援」、「クルーズ船受け入れ環境の整備」などです。

タイ・シンガポール　新規販路開拓にむけたオンライン意見交換会を開催

8月24日、りんごの海外販路拡大の目指し、タイ、シンガポールに販路を持つ輸出業者RE&S JAPAN(大阪)と、JAあきた北、秋田県を交えたオンラインによる意見交換を行いました。

タイ向けのりんご輸出は、シンガポールに比べると検疫などの条件が厳しく、事前に生産園地の登録のほか、選別・梱包施設の登録が必要となります。輸出は登録地からのみ認められています。

そこで、JAあきた北では、りんご（秋田紅あかり）の生産園地を新たに登録し、タイへの出荷体制の確立を目指しています。

秋田紅あかりは秋田県オリジナル品種で、糖度が高く、見た目も美しいのが特徴です。まだ全国的にみれば流通している数量は多くはないことから、プレミア感があり、バイヤーも高い関心を示していました。

タイは新型コロナウイルス感染症の拡大によりロックダウンの状態にあり、秋田紅あかりの出荷開始が予想される10月末～11月上旬に輸出が可能になっているか現時点では不明です。そこでシンガポールへの輸出を目指しつつ、タイ向けりんご輸出のために必要な準備を進めていくことで、引き続き検討していくことになりました。

秋田商工会議所事業「4地域経済交流会議の開催に向けた協議」に参加

7月30日、日中露韓の経済団体等による「4地域経済交流会議」の開催に向けた事前協議が、オンラインにより開催されました。当日は当協会のネザムトヂノフ・ヴィクトル専門アドバイザーが、秋田商工会議所のオブザーバーとして参加しました。

今年度の「4地域経済交流会議」はウラジオストクのロシア沿海地方商工会議所が主催者となっており、10月に開催を予定しています。

主催者代表のロシア沿海地方商工会議所ストゥプニツキー・ボリス会頭から、新型コロナウィルス感染症の影響により、現状では国外への移動や対面会議の実施は困難であることから、今年度の4地域経済交流会議も昨年同様にオンライン形式によって開催したいとの提案があり、他の参加団体もそれに同意しました。

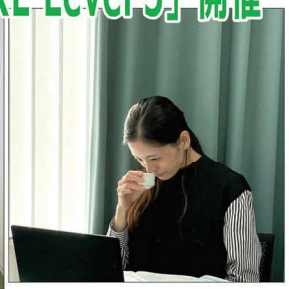
秋田の貿易ビジネスをサポートします
ATPA 一般社団法人 秋田県貿易促進協会
〒010-0951
秋田県秋田市山王2丁目1-40　田口ビル1階
電話　018(896)7366　FAX　018(896)7367　Email　info@a-trade.or.jp　ホームページ　http://a-trade.or.jp/

ATPA 一般社団法人 秋田県貿易促進協会 Akita Trade Promotion Association
Newsletter
第58号 2021年10月発行

齊藤健悦会長、「秋田県文化功労者」受彰！

9月29日、令和3年の秋田県文化功労者が発表され、当協会の齊藤健悦会長が産業分野で選出されました。当協会の設立から関わりその礎を築くとともに、会長就任後も県内企業の貿易取引の拡大促進に尽力されたことが認められました。表彰式は10月29日に秋田県庁正庁にて行われます。

米国プロモーション活動　日本酒講座「WSET SAKE Level 3」開催



講師の鈴木更紗さん

9月13日から15日にかけて、米国プロモーションの一環として、主に県内酒造会社を対象とした日本酒講座「WSET SAKE Level 3」を開催しました。

WSET SAKEは、ロンドンに本部を置く世界最大のワイン教育機関WSET(Wine & Spirit Education Trust) が認定する日本酒の国際資格です。世界で愛されているワインと同様に世界標準の表現で日本酒を学ぶことにより、世界中の人々へ日本酒の魅力を発信できる力を身に付けることができます。

当協会では、昨年11月に初級講座である「WSET SAKE Level 1」を開催しました。今回のLevel 3はさらにレベルアップした内容となっており、日本酒の主要成分と生産技術の違いがもたらす酒のスタイルや品質評価について「なぜその結論になったのか？」を理論的に導き出せる力を養うことを目的としています。世界的にも人気が高まっている講座で、年々受講者も増加しています。

本来であれば、Level 3の修了までには約半年間で9回の講座を受講する必要があります。現在、日本国内では東京、大阪でしか受講できないため、秋田県在住の方が受講するのはハードルが高くなっています。

今回は、WSETの日本認定校であるキャプランワインアカデミーのご協力により、3日間の短期集中特別講座を秋田県で開催することができました。

世界共通のカリキュラムに沿っているため、日本国内で開催されている講座もすべて英語で行われています。テイスティングの表現方法も普段とは異なることが多く、戸惑っていた受講生もいましたが、次第にコツを掴んでいました。

今回の講座で学んだ内容を活かし、海外販路拡大に繋げるとともに、秋田の日本酒の魅力を世界に向けて発信していってほしいと思います。

海外展開の取組事例紹介

川連漆器の歴史と技を守り日々進化させる
漆工芸利山(LI-ZAN)

秋田を代表する伝統的工芸品、湯沢市の「川連(かわつら)漆器」。これまで数多くの受賞歴があり、海外展開にも積極的に取り組んできた「漆工芸利山(LI-ZAN)」二代目の佐藤公さん（伝統工芸士認定）にお話を伺いました。

漆工芸利山 二代目 佐藤公さん

Q1：川連漆器の歴史と特徴をお聞かせください。

その歴史はおよそ800年以上前の鎌倉時代。武士が宮仕えの合間に、自らの武具に漆を塗ったことが始まりとされています。江戸時代初期には本格的な漆器産業が始まり、藩の保護政策のもと産業基盤が構築されました。

戦後の経済復興とともに高度経済成長期に入り、昭和51年（1976）には国の伝統的工芸品、平成8年（1996）には県の伝統的工芸品に認定されました。

その特徴は製法にあります。国産のトチ、ブナ等を素材とした粗挽きの木地に煙を当て、低温、長時間で乾燥させることにより、防腐効果とともに狂いや歪みを軽減し、木質が強化されます。さらに、研いだり磨いたりせず、自然のままの線と光沢を尊重する塗り立ての技法により、豊かな曲線と漆の持つやさしくふっくらとした質感が生まれます。

軽くて丈夫、断熱性、保温性、抗菌力に優れた川連漆器は、高機能で日常的に使われてきた実用の器なのです。

Q2：漆工芸利山としての信条をお聞かせください。

昭和32年（1957）、先代の佐藤利雄が創設。以来、天然木と本漆を使い、ひとつひとつ手作りで、独自の伝統を守るとともに、常に新しい展開を模索するのが自分なりのこだわりです。息子が後継者として製作に携わっていることはとても心強く、かつては「かわれんしっき」と呼ばれたことさえある川連漆器の知名度アップが最大の目標です。

Q3：海外展開に至るきっかけをお聞かせください。

平成11年（1999）、イタリアミラノ在住のインテリアデザイナー川本真人さんから「モダンデザインの漆器を作りたい。協力してほしい！」と旧稲川町役場に電話が入りました。川連漆器を愛用していた川本さんは、品質の高さを感じていたようです。「モダンデザイン」という未知の物に大方の同業者は拒否反応を示しましたが、川連漆器の存続に危機感を持っていたこともあり、挑戦したのが始まりです。

その後すぐに海外見本市への出展依頼があり、翌年2月、朝食プレートやコーヒーカップ等の漆器がミラノマチェフ国際見本市にてデビューしました。以来、4年に渡りイタリアの見本市に出展を続けると雑誌や専門誌で紹介され、イギリス、スペインなどからも注文が入りました。

イタリアンデザイン漆器
カプチーノカップとトレーのセット

平成28年度には、秋田県漆器工業協同組合と当協会で連携して、フランスでのプロモーションを実施した。
※写真はパリで漆器の沈金ワークショップを開催した時の様子

Q4：今後の海外展開に向けて考えていることをお聞かせください。

海外展開するうえで資金調達は課題のひとつです。行政支援による補助金等を利用する場合、中小零細事業者にとってその手続きは結構ハードルが高いのですが、是非このような補助金制度は継続してほしいです。

最近は中国、台湾等アジア圏からの引き合いも増えてきました。インターネットを通じて、いつでも、どこでも取引できる時代になりましたので、その対策のひとつとして電子パンフレットの制作に取り掛かる予定です。

また、漆塗りの釣り竿やアクセサリーなど、生活用品以外の分野でも注目される商品が出てきました。自分なりに今後の動向を探り、ヒット商品を生み出したいものです。

Q5：本年6月に秋田県漆器工業協同組合の理事長に就任されました。組合代表としての抱負をお聞かせください。

国内はもちろん世界で秋田県の川連漆器の知名度を向上させることが第一です。それは、組合員の生活向上にも直結するものです。

また、これまでの長い伝統、こだわり、基本的な製造方法を守り貫くことは、SDGs（持続可能な開発目標）そのものです。川連漆器は昔から使われてきたもので、材料から塗料、接着剤までほとんどが天然素材です。材料と職人の手があれば、修繕して永遠に使い続けることができます。伝統的工芸品がそこに根付いているということは、自然を守り育てながら暮らしていることなのです。

最近、漆には新型コロナウイルスを減少させる抗ウイルス効果（※）があると聞きました。今の世の中、さらに注目されるのではないでしょうか。

漆工芸利山(LI-ZAN)
〒012-0105　秋田県湯沢市川連町字上平城２-５
TEL 0183-42-2900　FAX 0183-42-5133
営業時間 AM9：30～PM6：00
定休日 不定休

（※）令和3年8月24日、福井新聞に掲載（以下、記事要旨）
漆の精製、販売を行う箕輪漆行（福井県越前市、箕輪利一社長）は、漆には抗菌、殺菌作用があるとの研究結果が報告されていることから、新型コロナウイルスに対する効果を調査した。同社の伝統的製法で作る漆を使った結果、24時間で99%以上のウイルスを減少させる効果を確認したという。

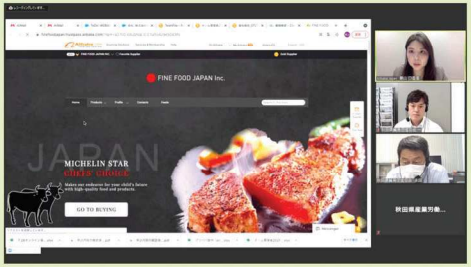
「オンラインを活用した商取引セミナー」を開催　越境EC活用事業オンラインセミナー

コロナ禍により、海外進出のための手段として、様々なオンラインプラットフォームの活用が注目されています。そうした中、当協会では7月27日と7月28日の2日間、「オンラインを活用した商取引セミナー」を開催しました。

初日は、中国消費者向けの日本商品特化型越境ショッピングサイト「豌豆公主（ワンドウ）」を運営する(株)インアゴーラが、越境ECサイトを活用したBtoCビジネスの仕組みなどについて講演しました。

2日目は、オンライン展示会プラットフォーム「Alibaba.com」を運営するアリババジャパン(株)が、オンラインを活用した商談先の発掘や、海外バイヤーとの商談の方法などについて講演しました。

今回のセミナーで、オンラインを活用した商取引についての理解を深め、今後の海外展開に活かしてほしいと思います。



オンラインセミナーの画面